

5. まとめ、今後の課題

地域志向型教育のノウハウの蓄積

- 地域農水産業に関係した学部では、地域志向型の実践的な科目を既存の教育体系のなかに組み込む

➡ 1) 専門分野を地域実践課題と関係させて、深く学ぶことの動機づけをする

2) 科目新設と既存科目の内容充実

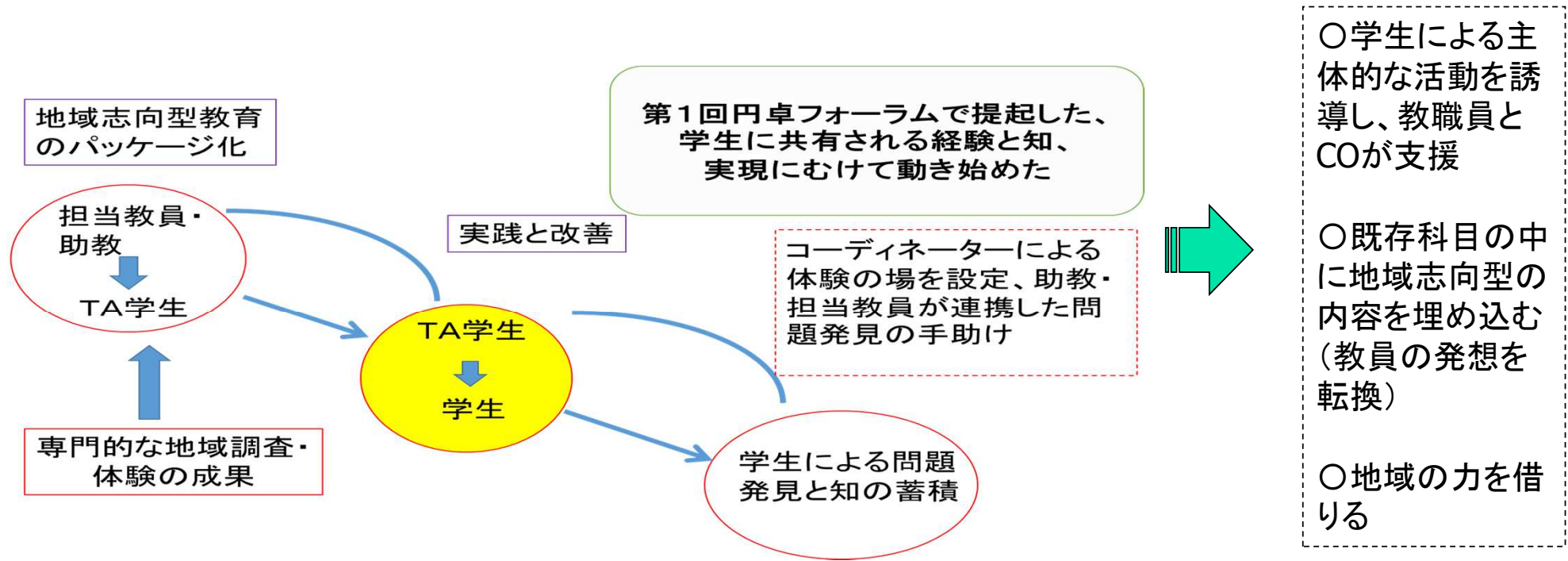
- 地域・自治体の支援を受けて、効果的、効率的なシステムを模索

➡ 1) 学生・大学にとって、体験学習や地域志向型科目は、コストと時間がかかりすぎる

2) 持続的に運営するためのシステム、ノウハウを大学間、地域間で共有する必要がある

学生に共有、移転される体験と知識

- COCの授業・活動を体験をした学生による伝達
➔ 上級生から下級生の縦のつながりができ始め、地域と学生、大学の継続的な関係構築へ可能性が強まった



連携地域の地方創生活動との共同

- 地域・市町からの教育内容に関する提案を反映
- 地方創生活動との相乗効果

COC活動と共通した目標を掲げる事業との連携が進みつつある

→ 地域による若者受入活動との協力が効果的。学習の場、実践の場を地域が提供

- 大学による地域志向型教育を推進するための大学間ネットワークの必要性が認識。同時に、大学と連携するための地域間ネットワークが創出される

ありがとうございました。

